

---

# 東方暇金狼録

零兎

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

東方暇金狼録

### 【Nコード】

N1445Z

### 【作者名】

零兎

### 【あらすじ】

ある日、水たまりで滑って転んでそのまま逝ってしまった主人公は、四季映姫のミスにより、前世の記憶を持ったまま金色の狼（ ）に転生し、拳げ句の果てには妖怪になってしまった。元人間の旅日記。

## Profile (前書き)

初めまして。小説を書くのは初めてなので、頑張っていきたいです

## Profile

### 主人公設定

名前：立花乖離たちばな かいり

高校三年生の男。身長190cm  
生まれつき茶髪で長身。

常にガン飛ばしてるような表情をしているため、やたらと不良に絡まれたりする。

好物は和食。ぶっちゃけ白米と醤油と水があれば生きていける。  
怠け癖が酷く、忘れっぽい。

運動神経が最悪だが、成績はそこそこ。

戦国時代は三度の飯くらい好き。

ちなみに彼の夢は「好きなときに好きなだけ眠ること」である。

……はじめに軽くプロフィールを書いてみましたw

四行目ぐらいからかなりいろいろ私のことを反映させてます

## Profile (後書き)

次回より0日目スタートの予定です^^^\*

〇〇 終わりは始まりと同意義である（前書き）

宇喜多さんがどうのこうのとは、完全に個人の意見です。

## 〇〇 終わりは始まりと同意義である

カリカリカリ

午後。静かな教室の中。

生徒たちはシャープペンシルをノートに走らせ、必死に板書している。

・・・ただ一人を除いてw

「zzz・・・ふっ・・・ふがつ・・・ぐうおおお」

窓際の一番後ろの席で、盛大にいびきをかいているのが、俺だ。明らかに空気をぶち壊している)・・・)

「立花あああ！！バシッ！」「ふご・・・っ！」「

見事にチヨークが額に当たる。

「痛い！！！！」

うん。地味に痛え。

まさか高三にもなってチヨーク投げされるとは思わなかったよ。

「あゝあゝ！！？」

「いやなんでもないっす」

面倒事は御免なんです。・・・と言いかけ、俺は慌てて口を閉じる。

先生は暫く怪訝そうにやたらとちらちら俺を見てきたのだが(こっちみんん(ry))

特に何事もなく、授業は終了した。

「……………」

下校時刻、俺はやや急ぎ足で廊下を歩く

目があった生徒は皆何故か恐怖の色をたたえていた。

この長身が悪いのか……？

いや、でも俺の他にも身長高い奴なんていくらでもいるよね

……まあいいか。めんどい。

それよりも、図書館図書館！

名将言行録見て突っ込みまくるぜ！

俺は調子に乗って廊下を走っていった。

自分がどれほど運動音痴かも忘れて。

……この先にある階段の存在も忘れて。

ズドダダダダダドドガシヤアアアンツ！！

「……………」



気がつく俺は、小さな小舟に乗っていた。  
というより、魂だけの状態で浮いていた。  
そして、周囲には同じような魂が大勢浮いていた。

「おっ、気がついたか」

「!」

よく見ると船の先には、大鎌を持った女が立っている。

「おっと、自己紹介がまだだったね。」

「アタシは死神の小野塚小町さ。」

しにが・・・み？

「まさか俺あんなことで死んだのか!? 恥ずかしすぎるだろ!」

・・・

誰一人反応しないんだがw

・・・もしかして、聞こえてないのか？

「おーい、聞こえてますk」そうか、お前等喋れないんだっけ」はい?」

これはやはり、聞こえてないのか・・・

「まあ、アタシは誰も喋らなくても語り続けるけどね」  
え? ちょ・・・

「実はこの鎌ってウケ狙いだったりするんだよねー初めはぶっちゃけねーわwとか思ってただけだ(ry」

本当にこの女喋り続ける気だ・・・!  
うわもういっぺん死にそう

「まあアタシは喜んでくれればそれでいいんだけどさーもうちょっ

と考えて（ry」  
ココガジゴクカイ？

「って感じなんだよ。・・・お！着いたよ」  
つ・・・ついに・・・！

なんかもう周りの魂さんも疲れてるっばいな。  
ちよっと魂のしっぱみたいなのがぺちやっ・・・ってしてるよ

んで？確か死んだら閻魔大王様から裁きを受けるんだっけ。  
確かに雰囲気はあるけど、まさかあの小っちゃいガキじゃないよね？

「小町！あなたはいつも喋りすぎです！今日だけ仕事場所が違うからって怠けない！」

「すみません四季様」  
・・・まさか・・・ね

「ふう・・・では、これより裁きを開始するわ！私は普段ヤマザナドゥっていう幻想郷の閻魔なんだけど、  
人間界担当の閻魔が急用で、代理として今日一日だけこちらの閻魔をすることになったの。」

ふーん。長い説明乙。  
ってか担当とかあるんだ、閻魔。

「では並んで。・・・もう、ここの閻魔って本当に整頓が下手なの

ね・・・後で説教よ！」

そう言つて四季様？は、がさごそとなにやら探し順番に裁きはじめた。

俺最高尾じゃん・・・

「裏切ることをやめ、まずあなたが信じなさい。これがあなたの積める善行よ。黒！地獄行きね」

「仲間の存在を日々意識すること。これがあなたの積める善行よ。白！転生しなさい」

・・・どうもテンプレ臭がするが、まあいい。

「次！あなたで最後よ！」

お、やっと俺か。

「えーと・・・確かここに・・・これかしら？・・・まあいいわ。」  
また捜し物かよ

「あなたの人生を見る限り、もう少し穏やかな表情で暮らすこと。それがあなたの積める善行よ。白！転生です」

・・・えらいあっさりだな。

表情のことは置いていて、

過去の武将とかもこうやって裁かれてたら面白いよな

もしかして地獄に行くと、宇喜多直家とか松永久秀に会えるんだろ  
うかw

いや、会いたくはないが。

「その門をくぐれば、あなたの新しい人生が始まるわ。いつの時  
代どこにどのような姿で生まれるかはあなたの運次第です。私です

ら、分からない。」

「覚悟はいい？」

ああ、と俺は頷いてみせる。

やはりこのあたりは閻魔らしい。

「では。」

俺は白い光に包まれる

新たな世界へ向かうため。

い。・・・直後に四季映姫が「間違えた！」と叫んだことを俺は知らない。

〇〇 終わりは始まりと同意義である（後書き）

なんか小町の口調が違う・・・

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1445z/>

---

東方暇金狼録

2011年12月11日01時49分発行